

令和 5 年度

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100774		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目6-10		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の装飾などを通して、季節感をお客様に感じていただける取り組みはそのままに、未だ感染症に予断を許さない状況ではありますが、社会的にも多少の緩和もあり、外部個人・団体を招いての行事の開催や地域行事へ、希望のお客様をお連れして参加し、季節毎に外出機会を設け、よりその時の季節感感じていただけようになるとともに地域との交流も少しづつ増やしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、ショッピングモール、福祉・介護事業所、医療機関などがある盛岡盛南エリアの閑静な住宅街に位置している。令和4年7月開設以来、職員一丸となり「私らしい今を、ともに輝ける明日へ」の理念のもと、日常生活の中で利用者それぞれが持てる力を発揮できるように支援している。また、職員の発案により、季節に応じた装飾の工夫、レクリエーション、イベントの企画等、利用者の日常生活に潤いが持てるよう工夫している。さらに、他福祉関連事業所の介護支援専門員に來訪してもらい、利用者1対1で交流できる機会を設け好評を得る等、周囲の関連事業所との連携等に積極的に取り組んでいる。今後は、災害時の協力体制の確立に向けて検討することとしている。各居室のベッドマットレスの下にはセンサーを設置し、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに観察できるシステムを活用し、体調の急変や事故を未然に防ぐ等の対策をとっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践している。ご自身でできる役割を考えながら、月光で照らされるように穏やかな時間を過ごし最後まで輝ける人生をおくっていただけるようにサポートしている。	開設当初職員で話し合いを重ねて作製した「私らしい今を、ともに輝く明日へ。」との理念を、玄関・ホール・面接室に掲示している。日常生活の中で利用者が役割を持つことにより、理念の「私らしい今」を実現できるよう日常のケアを行っている。そのため、日々の介護が理念にどう繋がるかを意識しながら職員一人一人が目標を定め、管理者と職員とが定期的に面談を行い、随時目標の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ希望のお客様をお連れして参加したり、施設内行事では外部の個人・団体を招き開催に至ることもあった。	自治会に加入し事業所の概要を「ツクイたより」として発行し回覧して貰っている。事業所には民謡や踊りのグループやそば打ち職人の実演、焼き芋屋台の来訪等に加え地元活動センター祭りの見学等で、利用者の日常生活に変化と潤いを与えている。また、事業所周辺の散歩の途中で近隣住民と挨拶を交わすなどして、地域とのつきあいを積極的に行っている。今後は、近隣福祉施設等との日頃の交流や災害時の協力体制の検討等を前向きに取り組むこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様と近隣の散歩に行き清掃活動をしている。また地域包括の会議に伴い近隣の住民の方が交流スペースを利用して語らう時間を設ける活動も今年初めて取り組んだ。その他入居相談にいらした時に単なるご入居ではなく在宅サービスを紹介するなどご家族様へのアドバイスを伝えている(月光も同様)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催している。その中で話し合った内容を次月の請求書と共にご家族様に開示。職員にも内容を確認してもらった上でユニットリーダーに伝達。改善に活かしている(月光も同様)	今年度は対面方式により、市担当課、地域包括支援センター、民生児童委員、家族等の出席のもと、2か月毎に開催している。会議では、日頃の利用者の状況や火災避難訓練の際の地元消防団への声かけやボランティアの受け入れ等の提案をもとに、意見交換が行われている。会議内容に返信用封筒・様式を添えて全家族に送付し意見・要望をいただいている。なお、遠距離在住の家族もいる中で、家族の出席のあり方について今後検討することとしている。	

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいている。また運営に関して不明点がある場合にはその都度問い合わせをして回答をいただく様になっている(月光も同様)	担当課職員が運営推進会議にも毎回出席し、運営に関する提案をいただくなど、良好な関係にある。また運営推進会議の報告書は市担当課内で回覧されているとのことであり、事業所運営について随時相談し助言を得ることのできる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年二回実施して内容を理解する努力をしている。また身体拘束廃止いわて宣言の資料も活用している。	「身体拘束廃止いわて宣言」をもとに、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。該当する事例が発生した場合には、背景や今後の対応等について意見交換を行っている。委員会での検討内容を職員間で情報共有をするとともに、各種資料をもとに研修も行っている。また、居室のベッドマットレス下にセンサーを設置し、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに確認できるシステムを導入している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を年二回実施。虐待はしてはいけないことという意識を高めている。6月に不適切なケアが発生してしまい、行政に報告するのはもちろん、運営推進会議で報告後、ご入居されているご家族様にも同様の文章を送付。所内でも繰り返し話題とし絶対してはいけないという意識を持ってもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方に定期的にご連絡をしている。後見人への理解が出来ない方に対しては情報を提供してご本人に配慮しながら対応している。また、毎月当月の状況を報告書として郵送している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて納得していただけるように心がけている。また必ずご入居されるユニット内を見学してもらい疑問点がないか確認している。入居の継続が難しくご退去の事案が発生しそうな方には時間を設けて説明をするようにしている(月光も同様)		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で集約した意見をユニットリーダーへ伝達をしてユニット内で理解を深めていたり、タブレット端末での記録を通して共有し理解を深めている。(月光も同様)	月1回家族あてにA4判用紙に「利用者の食事、排泄、清潔、健康状況、受診した場合はその結果」等を記載したものと、イベントの様子を掲載したカラー写真入りのツクイだよりを送付している。また、2カ月に1回開催している運営推進会議の検討内容も報告しており、その際、返信用封筒と様式も添えて、家族から運営に関する意見もいただき、いただいた内容について事業所内で検討し、日頃のケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーに意見集約をお願いしている。また、面談でも直接意見を聞くようにしている。(月光も同様)	ユニット会議、リーダー会議、管理者との2カ月に1回の個人面談等で提案された意見要望が運営に反映されるようにしている。職員はデイサービス経験者が多く、その経験が日々のレクリエーションやイベントに具体的に活かされている。また個別面談では目標管理シートを用い、課題等について確認を行い、次回面談までの目標を設定する等、PDCAサイクルに沿った対応を進めている。なお、研修や資格取得も促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施している。社員は目標管理シートの入力して自分の取り組みが振り返れる様になっている。またパート職員には役割をもってもらえるようにしている。状況の確認はユニットリーダーや管理者も相談に乗るようにして無理なく進められるようにフォローしている(月光も同様)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法定研修の受講の促し、参考等なる資料があればユニット会議等で共有できるようにリーダー経由で職員に渡す様にしている。また認知症実践者研修への参加の促しや外部の研修にも参加できるように働きかけている(月光も同様)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苦情解決情報交換会や包括が実施する研修、またツクイ東北圏GHで実施している意見交換会など参加できるようにシフト組をしております。(月光も同様)		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の症状の捉え方でご家族も対応に困る場合もあり、都度お声掛けをして相談に乗る様にし、ご本人にも話を伺い解決策を見出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご紹介いただいたケアマネージャーからまず聞き取りをしている。情報をいただいた上で、入居判定にかける為のアセスメント時にさらに要望などを伺い施設サービスを使う上での不安の払拭に努めている。 ご家族様、ご本人様との会話を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力申し込み時見学にきていただいている。そして何に困っているか、どういう生活を本人にしてもらいたいかなど聞き出す。計画作成担当か管理者が対応できる日程とし時間をかけるようにしている。在宅サービスが説明できるよう系列のケアマネにも協力してもらっている(月光も同様)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のスキルを大事にして状況に応じた声掛けをして一軒の家に住んでいるという風に話をするようにしている。 当方に気を使って必要な発現ができないという事がないように働きかけている。 当番表を作成して食器洗い等への取り組み、また食器棚へ写真をはり簡単なサポートで片付けが出来るような仕組み作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の表情、体調の変化に注意をして、ひとつひとつ丁寧に不安の払拭に努めている。必要に応じて電話で報告し必要なものを持参いただいたり、面会を促している。		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が訪ねてきたいと話された時には地図を提供したり、お手紙が着いたときには直接お渡しをする様にしている。お電話が着た時には出来る限りつないでいる。	家族や友人等、コロナ禍以降面会を受け入れており、これまでの関係性を継続できるよう支援している。また、3カ所の医療機関医師による訪問診療、週1、2回の訪問看護ステーションの訪問看護師、さらに訪問薬剤師、2カ月に1回の訪問理容等は利用者にとって馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の表情や体調の変化に注意をして、必要に応じて声掛けを行い円滑な関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院が継続しご退去の方向となっても限りなくご相談いただけるようにご家族様には声掛けをしている。次の行き先についても困る事が無い様に関係機関と連携をしている。ご逝去の場合は当方の対応について感想をうかがうなどして寄り添う事を心掛けている(月光も同様)		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と別室で管理者を含めお話をしている。必要に応じてご家族とも情報を共有して何が一番のぞんでいることなのかを検討している。	利用者のこれまでの生活歴や事業所内での生活の状況から、その人の人となりを捉えるとともに、日頃の何気ない言動からその人の望んでいることを汲み取るようにしている。また、排泄の失敗やトイレ誘導の際には、さりげない声かけや誘導を心がけている。さらに、職員の利用者への声かけで気になることがある場合には、職員相互に注意喚起するとともに、ミーティング等で対応の仕方を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時に対応していたケアマネージャーより情報をいただいている。その後訪問してご家族に直接聞く。また入居されてからも楽しみだった事を伺うなど会話からくみ取りようにしている。行動で確認したいことがある場合もご家族様にすぐ聞く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いせず、ご入居されたらご本人がどのように人とか関わるかをよく観察する。各職員と情報を共有してご本人のペースを把握する様に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施しユニット内で情報をまとめ計画作成担当者と共有している。またご家族様に情報を共有して面会に来所した時に直接伺ったり、必要に応じて電話にてご意見が内科伺っている。	利用開始当初にこれまでの状況を把握した上で暫定プランを作成し、その後利用者の日常生活の状況等のモニタリングを行い、3ヵ月毎に見直しを行っている。理念に基づいたその人なりの「役割」も念頭に、介護計画を作成している。協力医の意見、訪問看護師の助言も随時確認し、介護計画に盛り込んでいる。家族にも送付して内容を確認していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している。タブレット端末の記録を活用した情報の共有と口頭での申し送り。重要なものについてはマークを付ける等の工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご自宅への帰宅願望、買い物などご家族様と協力しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや地域広報から情報を得て、地域での作品展示会や行事への参加。必要に応じて地域包括アドバイスをいただきながら対応している。また、地域包括や地域の居宅介護支援事業所のケアマネージャーを招き認知症について考えることを趣旨にお客様との行事を開催した。(月光も同様)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施できている。ご家族の承諾後、協力医への切り替え、小坂内科消化器科クリニック 4名、真山池田医院 2名、かつら内科医院 2名	利用契約時に意向を確認し、現在は利用者全員が事業所の協力医を主治医としている。3ヵ所の協力医による訪問診療、訪問看護ステーションの看護師の訪問、さらに処方された薬は薬剤師が直接来訪し具体的な助言を得ている。受診結果については家族に送付している。また人工透析が必要な利用者については、介護タクシーにより医療機関を受診している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。事前に情報をまとめ情報共有がスムーズに行えるように工夫している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	実施している。必要に応じて医療連携室やソーシャルワーカー等に連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施している。お客様の状態を確認しながら、ご家族に情報提供。協力医よりアドバイスをいただきながら対応している。	利用契約時に「重症化した時の指針」「看取りの指針」をもとに、利用者と家族に説明の上、「意思確認書」を提出していただいている。その後の状態変化や食事摂取状況等から看取りを考える時期になった際には、家族に再度意向を確認している。家族が看取りを希望する場合には、かかりつけ医、訪問看護師からケアの指導・助言を得ながら安らかな最期を迎えることができるよう、職員一丸となって終末期ケアに取り組んでいる。月光ユニットで一人の方の看取りを行い職員の振り返りも行っている。	看取りを経験した際には振り返りを行ったとのことであり、今後も家族の思い、当日対応した職員の思い、医療機関との連携等、ケアを振り返る機会を設けることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を実施するとともに実際発生した例を参考に実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。どのような手順ですればよいか確認している。夜間の呼び出し対応をまず管理者が対応してみた	避難訓練を年2回実施。これまで火災訓練の際には、玄関から避難するユニットと、もう一方のユニットは窓から避難する訓練も行ったこともある。今年は夜間の管理者への通報訓練を行い、事業所到着までの時間を確認し課題も明確になったことから、今後の通報体制を検討することとした。消防署への相談等も積極的に行い指導助言を得ている。運営推進会議で提言された地元消防団への協力要請についても、今後検討することとしている。	

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人となりをくみ取りながら声掛けや確認を行いながら支援している。	利用者のこれまでの生活歴や事業所内での生活の状況から、その人の人となりをとらえるとともに、日頃の何気ない言動からその人の望んでいることなどを汲み取るように努めている。また、排泄の失敗やトイレ誘導の際には、さりげない声かけや誘導を心がけている。さらに、職員の利用者への声かけで気になることがある場合には、職員相互に注意喚起するとともに、ミーティング等で対応の仕方を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度、お声掛けにて働きかけをしている。手作業など食事の嗜好も時々要望を伺いながら、自己決定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に合わせて声掛けをしてお過ごしいただいている。そのときの気分を伺い延期するなどして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴後の着替えについてご本人に確認しながら洋服を選んでいただいている。季節に毎にご本人へ確認しながら不足があればご家族様にご協力「いただいたり、買い物にでかけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんが見ている目の前で準備をしている。好みを伺いながら対応。片付けもご本人のペースを大切にしながら声掛けを行っている。	献立は本社で作成し、食材は本社集中センターから送られている。それをもとに各ユニットで適宜食材を追加し、彩よく盛り付けている。毎月19日と29日をツクイの日とし、今年度は「空旅の日」とし全国の郷土料理を提供する等の工夫を凝らし好評である。また、利用者や家族の意向を踏まえ、寿司、パン等の希望を取り入れることもある。利用者は盛り付け、配膳、茶碗拭き、テーブル拭き等可能な範囲で積極的に手伝っている。輝ユニットでは、当番表を作成している。なお、飲み込みに問題がありそうな利用者については、他機関の言語聴覚士に依頼して飲み込み検査を実施するとともに、系列法人の栄養士とも相談し、食形態を工夫する等して個別に対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。水分量に注意し、飲み込みに不安がある方はトロミをつけたり、食事形態を変更して対応し、食事量の減少が続く場合や体重の増減によっては、栄養士や協力医の意見を取り入れながら、栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援を行っている。声掛けを必要に応じて行い、介助や物品のセッティングを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本ご本人の尿意等に合わせた介助をしている。ご本人から申し出やトイレに向かわれている様子がない場合は時間を見計らって声掛けをしている。	排泄パターン、水分摂取量などは全て入力されている。輝ユニットでは1人の利用者が全介助であるが、それ以外の利用者は自立している。月光ユニットは、2人の利用者が自立している。自立している利用者でもなかなかトイレに行こうとしない場合には、仕草や表情、排泄パターン等から時間を見計らって声かけしている。ポータブルトイレ利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を実施している。腹部を動かす運動をしている。過介入となり、尊厳に配慮した把握が難しいお客様へは、看護師に依頼しお腹の張りや腸の動きを確認し、下剤を調整しながら提供している。便の状態を協力医へ共有し薬の処方をしていただいている。4日以上排便がない場合は、訪問看護の来所日に浣腸を実施している。毎日午前、午後、最低でも一時間は運動の時間を設けており、スタッフが声掛けしつつ楽しみながら体を動かす様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の入浴時間に配慮して日程を決定。介助の程度にもよるが可能な限り夕方以降の入浴やその日の気分によっては時間や日を改めて対応している。	週2回午後の入浴とし、同性介助を基本としている。また、夕方入浴を希望する利用者もいて、その利用者は、職員の見守りあるいは一部介助での入浴が可能なため希望に添って対応している。利用者にとって入浴はゆったりと過ごし、職員ともゆっくり会話することができるとともに、その人の思いを聞くことのできる貴重な時間である。さらに入浴を嫌がる人には、入浴券を作るなどの工夫もしている。時には、ゆず湯などで季節を感じられる楽しい時間となるよう支援している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。傾眠が見られた場合などは声掛けをし布団での静養の声掛けをおこなったり、足浴がしたいとお話があれば対応出来るように準備を行っている。季節や時々のご入居者様の希望に応じて室温の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。協力医より薬内容の変更などがある時は申し送り等で共有。また薬の情報は職員が確認できるスペースに置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片づけなどは入居者様を交えて当番表を作成している。ご入居者様の嗜好にあわせた余暇の手作業や居室の掃除やシーツ交換などご入居者ご本人を交え確認しながら実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望によって、職員やご家族の協力をいただいて対応している。専門医への受診はご家族様にお願いしている。	ゴミ出しに職員と一緒に出かけ、その際ごみ拾いを行うこともある。時には、事業所周辺と一緒に散歩したり、近隣商業施設付近へ散歩に出かける等、天候や利用者の状況に応じ臨機応変に外出の機会を設けている。また、季節ごとに花見に出かけたり、紅葉狩りに出かける等、四季の変化を感じてもらえるように計画的に実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ご本人がお金を所持していない。欲しいものなどの希望があった時は、ご本人やご家族、後見人に確認して立替で購入したり、体調が安定している時はお連れして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。携帯電話等の使用は可能としている。ご本人が連絡したいと話された時は事業所から繋ぐこともある。また、ご親友や親類の方への連絡はご家族へ確認しご協力をいただき繋ぐこともある。		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の相性を考えて席を固定している。また時々のご入居者様の精神状態によっても配席を変更している。ご入居者様の希望を伺いながら、居室の照明の設定や冷暖房の調整をまめに變更している。季節に応じた装飾や季節に応じて時には食堂の窓を開放し外気を入れる機会を設けている。	エアコンで室温管理され、室内は落ち着いた雰囲気の色合いで統一されている。テーブル席は利用者同士の相性等を考慮し配置している。共有空間には、利用者と職員と一緒に作った季節感に溢れる作品を掲示している。また職員の提案により段ボール製の神社を作り、利用者がお参りをするなど、職員の発案による作品等が利用者から好評で日常生活に変化と潤いをもたらしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配席を工夫している。みんながテレビを見れる向きとしている。ご入居者様の性格を見極めながら配席している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時におもにご家族様の協力をいただいている。在宅で利用していた棚や机など居住に支障がない程度にご持参いただけるようにしている。また、入居後もご本人の話を伺いながら配置の變更や物品の購入をご家族の協力を得ながら整備している。	居室には、エアコン、リクライニングベッド、クローゼット、ナースコールが備え付けられ、利用者はテレビ、椅子、テーブル、家族写真等を持ち込みでいる。また、レクリエーションで作成した装飾品を居室に飾ることもある。ベッドマットレス下にセンサーが設置され、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに確認できる見守りシステムを導入している。季節の変わり目には衣類の入れ替えなどを家族も一緒に行うこともある。居室掃除は、可能な限り利用者も職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンなどご入居者様が携わる部分については、備品へ名称を貼り付けたり、写真を貼り付けて分かりやすくしている。また導線へは unnecessary な物は置かないようにしている。		